

パネルディスカッション 「クラブ活性化」

コーディネーター

地区大会実行委員長

上條 優雄

パネリスト

第2630地区 鈴鹿西RC

松本 裕夫

第2840地区 前橋RC

本田 博己

千葉北RC直前会長

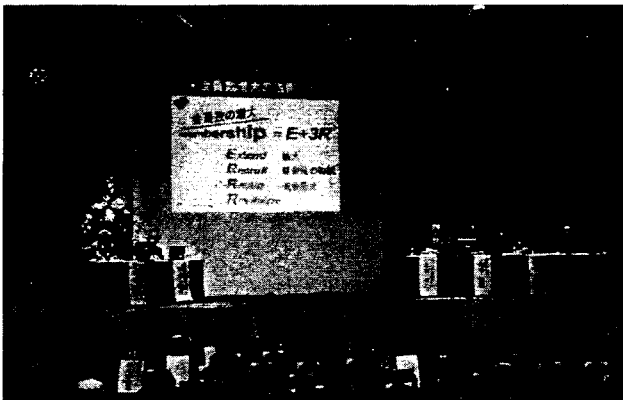
長塚 公毅

成田RC会長

設楽 正幸

地区クラブ奉仕委員長

常泉 健一



大会第1日目、1時間20分におよぶパネルディスカッション

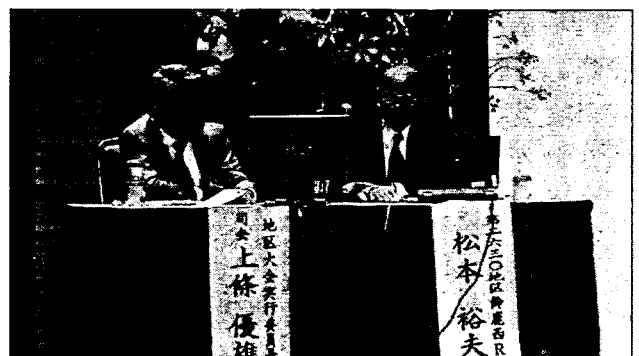
上條：皆さん、こんにちは。それでは「クラブ活性化」と題しまして、これよりパネルディスカッションを開催させていただきます。最初にパネラーの皆様をご紹介します。

先ず私のお隣、皆様から見て左から二人目の方は、第2630地区・鈴鹿西ロータリー・クラブよりお越しいただきました松本裕夫さんです。鈴鹿西ロータリー・クラブは早くからクラブリーダーシッププランに取り組んでおられまして、会員数も増加されていると伺っております。松本さんはその仕掛け人のような方です。

松本：松本です。鈴鹿西RCは現在会員数54名でして、日本の平均的会員数で、女性会員は6名です。創立22年になります。CLPの導入は早かったのが、その実態を報告せよとのご下命で参上いたしました。よろしくお願ひします。

上條：そのお隣も地区外から馳せ参じてくださいました。第2840地区・前橋ロータリー・クラブ 本田博己さまです。前橋ロータリー・クラブはクラブ内で独自のアンケート調査を三年間に渡り実施し、会員の満足度を調査して、クラブ総意の改革方針を作成実行しております。それにより100名を越す大型クラブではあります。会員数は増強傾向にあり、大変活発なクラブ活動を継続しております。

本田：前橋RCの本田です。私はロータリーに入会してまだ10年です。当クラブの会員数は106名です。3年前よりクラブ改革のプロジェクト「21世紀委員会」というのを立ち上げまして、私もスタッフの一員を勤めてきました。昨年度は2840地区曾我ガバナーを輩出しました関係で、事務局長を務めまして、CLP・DLPに携わってきました。その辺のところをお話させていただきます。



第2630地区鈴鹿西RCよりお越しの松本氏と司会の上條氏



上條：お隣にまいります。お顔をご存知の方も大勢おいでのことと思います。千葉北ロータリー・クラブの直前会長であります長塚公毅様です。昨年度当地区でトップクラスの会員増をされましたクラブの会長さんです。その秘訣をお伺いします。

長塚：私は1982年に千葉西RCに入会しました。1987/88年に幹事を経験しまして、90年に千葉東RC創立参加、91/92年度チャーターナイト時の会長を引き受け、48名会員全員の協力により「登録会員数1386名、プリンスホールを貸し切ったの「式典」は今では懐かしい思い出となっています。

97/98年度、再度「千葉北RC」創立に参加、昨年度2回目の会長を無事終了いたしました。

1996から2000年の間、地区「WCS委員会」に出向、1998から2000年には委員長に任命され、楽しく充実した5年間を過ごすことができました。

千葉西RCで10年間、千葉東RCで7年間、千葉北RCで9年間、26年間の「ロータリー歴」がありますが、出席率100%、丈夫に生んでくれた親に感謝、多くの知己友人が出来たことに「感謝」の毎日です。

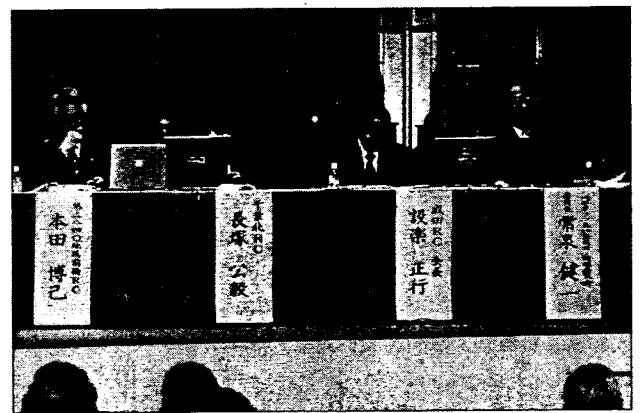
上條：続いてそのお隣は成田ロータリー・クラブの現会長であります設楽(しだら)正幸様です。私の知る限りでは当2790地区で、比較的早くCLP導入をご検討いただいておりますクラブと思っています。

設楽：成田RCの設楽でございます。私の自己紹介はプロジェクターに出ているとおりでございます。

私はこの場をお借りして今日お見えの地区外のお2人に御礼をまず申し上げたいと思います。と申しますのも、ご紹介にありましたように本年より成田RCはCLPの導入を検討してまいりました。そして次年度よりこれを採用してい

く予定であります。この間鈴鹿西の松本様にはネットを通じて様々お尋ねをいたしました、大変丁寧にご返事を頂き本当にありがとうございました。また、前橋RCの本田様にも3年間に渡る成果をこれまたネット上で見させていただき大変参考とさせていただき感謝申し上げたいと思います。

先人としての両クラブの実績を見なければ次年度からの採用はおろか、更に準備が長きに渡ること余儀なくされたと思い、この場をお借りし、感謝いたしまして自己紹介に変えさせていただきます。



左端の第2840地区前橋RC本田氏と
地区内から、長塚氏、設楽氏、常泉氏。

上條：さて、最後にお控えいただいております方は、今年度の当地区クラブ奉仕委員長であり、その委員会の中の小委員会でもあります情報委員会委員長でもあります、常泉健一さんです。

常泉さんは実は私と同じ市原RCの会員ですが、当地区のクラブの活性化政策の進捗状況や問題点をお伺いしたいと思っております。

常泉：1997/98に会長を、そしてその後地区の委員を3年程務めさせていただきました。白鳥ガバナーと同じ市原RCに所属しておりまして、パネリストをおおせつかりました。よろしくお願ひします。

上條：以上5名のパネラーの方とコーディネー

ター役として私、上條でディスカッションをしてまいります。私は今回の地区大会の実行委員長を勤めさせていただいております。実行委員長もパネルディスカッションのコーディネーター役も、まったく初めての経験でして、いたらない点が多々発生するものと思っておりますがご容赦くださいますようお願いいたします。

上條：この地区大会を企画するに当たり、地区幹事会で縷々検討を重ねてまいりましたが、第1日目は何か地区内83クラブのお役に立つようなプログラムを行いたい。そして第2日目は参加する皆さんに楽しく友情を温めていただけるようなプログラムを考えよう、というのが地区幹事団のコンセンサスでした。ですから、明日をお楽しみにしててください。ただし、今日は少しまじめにクラブの活性化策について討論いたしまして、明日からの皆様のクラブ運営に何がしかのヒントになるものをご提供できれば、と考えています。

上條：それでは具体的討議に入らせていただきます。最初に当地区のクラブ奉仕委員長であります常泉さん、地区内の現況と、どのような問題点を抱えておられるのかを伺いたいと思います。

常泉：2790地区における当面の大きな課題は、会員数の急速な減少傾向に何かしらの対策を講じねばなりません。プロジェクターでお示しているように、

20年前	1986年	3,525名	クラブ数68
10年前	1996年	4,322名	クラブ数80
	2003年	3,512名	
	2004年	3,317名	
	2005年	3,172名	
	2006年	3,099名	

現在3,000人を切ろうとしています。このことは近隣地区も同様で、時代の流れでいたしかたないと思っておりますが、どこかで策を設けて会員減

少に歯止めをかけなければいけません。そのためには、入会者にとって魅力のあるクラブ造りが緊急の課題になっております。

白鳥ガバナーは、年度初めにクラブ活性化の方針を掲げ、地区の会員増強の現状を現状に甘んじないで、説く常泉クラブ奉仕委員長。先ず、クラブの棚卸をしようと呼びかけています。私ども地区クラブ奉仕委員会は、クラブ活動運営の基幹部門を担当する部門であり、ガバナーのスタッフの役割を持つ委員会として、課題解決のため積極的に活動を展開しています。その一つを紹介しましょう。

近年、クラブ内でロータリー活動の基本理念の理解が弱体化しており、このことが、退会の原因の一つになっていると言われております。このことを受けて、今年度は、情報委員会の活動を強化して、地区内を4グループに分けて、入会歴の浅い会員に参加いただき、ロータリーの基本理念について理解いただくため、基調講演、フォーラムを開催しました。十分な成果を挙げることが出来たものと自負しております。

一方で、今日課題となっておりますクラブ活性化対策の一策としてR I 提唱のDLP、CLPについては、私どもの委員会としては、研究をはじめたばかりで理解は全く不十分です。本日は、この分野の先達であります他地区からお二人の方においでいただいておりますので、貴重なご意見を頂けるものと期待しております。又、会員増強は各クラブの活動が活性化されて、ロータリアンが在籍することに意義を感じ、魅力のあるクラブになってはじめて達成されるわけで、クラブの活性化はCLP、DLPに限ったものではないと思っております。今日は、その辺のお話をお聞かせいただき、今後地区のクラブ活



地区の会員増強の現状を現状に甘んじないで、説く常泉クラブ奉仕委員長。



性化の推進に役立てたいと思っています。

上條：今日はCLPとかDLPといった言葉が多く飛び交うことでしょうか、最初にCLPとは概略どのようなものなのかを松本さん、お聞かせいただけますか？

松本：近年、RIから推奨されていますクラブの活性化のための組織作り策として、クラブ会員数に合わせて小規模なクラブはそれなりに簡素化した組織に変更しよう、そして単年度制であったロータリー組織に、三年間の継続性を持たせて、プログラムに繋がりを持たせると同時に、リーダーになるような人材育成をしようということと理解しています。

従来のクラブ細則とどこが違うかといいますと、2点です。ひとつは4大奉仕を基本的な枠組みとするということと、もうひとつは5つの常任委員会を設けるということです。過去10～20の委員会があったのですが、非常に簡素化されています。また、推奨の9つの項目があります。例えば長期計画を立てましょう。クラブ協議会が大切ですよ。CLPに関する情報を常に協議会で提供していきましょう。クラブプロジェクトには全員が参加しましょう。といったような項目として、何も全部やらなくてもよいのですが、推奨する項目が9つあるわけです。

上條：結構な方策ですね。確かに活動していないような委員会が私のクラブにもありますよ。また、一生懸命に委員会活動をしていても、翌年になるとプツンしてしまって、去年の努力が水の泡・・・とかですね。継続性のある活動の中から、地区の委員になるような若手人材がどんどん育っていくと、地区ごと活発化するでしょうし・・・。

ところでDLPというのは、「地区リーダーシッププラン」の略語ということは知っているのですが、具体的にはどのような活動をするのでしょうか？

本田：DLPは1980年代から検討されていまして、97年から実施されており、2002年からは採用が義務化されているのですが、実際にはあまり利用されていないようです。私ども前橋RCから排出しました昨年度の2840地区・曾我パストガバナーが、このDLPの導入に熱心でして、最近ではガバナー補佐の教育に力点を置いて活動を続けています。といいますのはガバナー補佐の活躍が大きな要素になります。例えばクラブへの訪問は年間最低4回以上と改められました。

要するに今後、CLPを導入していくクラブが増えることと思いますが、その導入の手助けを地区がしていかなければなりません。当然ガバナー補佐全員がCLPを良く理解して指導できるような体制を整えねばならないわけで、リーダーとしての幹部教育からせねばならないわけですから、そう簡単にはいきません。当地区ではガバナー補佐は慣習的に分区内の持ち回り方式を取っていたのですが、今年からガバナーが直接ガバナー補佐を指名するように改められました。また、従来の「クラブ奉仕委員会」を「会員組織強化委員会」と名を改めまして、委員長はガバナーが兼務し、委員には各ガバナー補佐が兼務しています。これが大きくCLPの前進に繋がるわけです。

また、地区の運営方法も効率化を図らねばなりません。各クラブのCLP同様に不活発な委員会とか活動の意味の薄い委員会を廃止し、効果的に活動している委員会に思い切りウエイトを掛けていくことになると思います。

上條：さて、長塚さん、千葉北RCでは昨年度、大量増強なされたと伺いましたが、長塚会長年度で何名が何名に純増したのですか？ その辺のご苦労談も合わせてお聞かせ下るでしょうか？

長塚：私が昨年会長を引き受けました時の会員数は25名です。当時千葉北RCは会長経験者が

5名、地区出向経験者が5名ということで、ロータリーに詳しい会員が多くいる・・・と言って得々と語る会員がいましたが、私は一抹の不安を感じていました。終わった人の集まりではないかと・・・。

その後、PP13名中5名が「物故」あるいは「退会」され、会員の多くも「ロータリー」を去って行きました。ここ2～3年間は一部を除き「活動」は停滞し、出席率の低下につながり、寂しい「例会」に終始しました。

まさに「クラブ崩壊」の危機さえ感じ始めました。合併の話がときに聞こえたのがこのころです。

でも、私は確信していました。情熱ある会員が在籍し、「クラブを活性化」させれば、千葉北RCは必ず立ち直れると・・・。

まず、会長経験者が立ち上がりました。外立幹事、斎藤SAA、廣瀬ロータリー情報、を始め石井PPはクラブ活性化の根幹となる「プログラム・会員増強委員長」を引き受けてくださり、又、全会員が積極的に協力してくださいました。

「全員参加」「全員主役」明るく楽しい一生の友づくりを！ をテーマに設定。

目標を第一に「会員増強（5名以上の純増）」第二に「例会充実（出席率の向上）を行動（実戦目標）といたしました。例会出席人数が少ない・・・。ゲストスピーカーを呼びにくい・・・。という悪循環を断ち、楽しく有意義な例会を充実させるために、委員会活動費を大



「会員増強のキーは会長の情熱」と説く長塚氏。

幅に増額しました。

「石井プログラム委員長」は見事に「例会充実」を達成されました。

国際関係では「ユニセフ」「国連世界食料計画(WFP)」「日本赤十字」「国境なき医師団」PG3名、

地区（7名）を始め、46回の例会に18名のゲストスピーカーを招き、その内5回を「特別例会」とし、「入会希望者」を含め多くのゲストを招き、出席率も85%を超え、活気のある「クラブ」に変身することができました。

会員数も23名の会員から6名増強、29名会員を達成することができました。ただし、まだ中間点です。前半に「WFP活動写真展」を開催（市民ギャラリー）全会員が積極的に参加、400名を超える動員を達成し、千葉北RCは今、活発に活動しています。

以上、まとめますと「会員退会防止」「会員増強」の秘訣は、

「会長の熱意（会員の協力）」

「例会充実（出席率向上）」

「親睦（楽しい仲間づくり）」

「事業・行事への積極参加」

の四大要素があれば、「増強」は達成できると確信しています。

上條：私のクラブでも一昨年に新会員12名を獲得して、純増4名という好結果を出したのですが、やはり会長・幹事の情熱でした。長塚さんの執念が実ったのですね。

長塚：6名の新会員の内、5名が元会員の方でした。その内のひとは分区代理までやられた方なのですが、ご病気で退会されていたのです。70歳を過ぎておられたので、病気が治っても復帰する気にはなれなかったのですが、何度か通って入会してもらいました。

今は毎週の例会がまちどおしいぐらいにロータリーを楽しまれておいでです。奥様にお会いしました折に、「無理にお誘いして申し訳ありません」といいましたら、「いいえ、大変感謝しております。最近の夫は生き生きとしてきました」と言われて、涙が出るような喜びを感じました。



上條：大変なご苦勞をされたのですね。クラブ存亡を賭けて長塚会長さんは取り組まれたのですね。

だからこそ、そのような感激を味わうことが出来たのですね。

長塚：私の年度は予算が厳しかったのですが、それでも6名が入会してくれ、その年会費が増収になりましたので、思い切ってプログラムに金を掛けました。それまで年間4万円だったプログラム経費に40万を掛けました。例会が充実していれば、出席が良くなりますし、活気が出てきます。

今年はWFPという国際奉仕活動を行っております。これは緊急援助の必要な国にまっさきに食料品をとどける国連団体への支援なのですが、こうした積極活動が出来ようになったのも、会員が増えたお陰です。

上條：その後、会員数に変化が出ていますか？

長塚：残念ながら1名減の28名が現状です。名前だけの会員（出席率の極端に悪い）が居心地の悪い「クラブ」になりつつあります。私は良い傾向と確信しています。

後半は「種を蒔いた・・・」会員増強（5名以上）に向け、「再チャレンジ」を永島会長は約束しています。千葉北RCは近い将来「50名会員」が目標です。

上條：千葉北RCが益々隆盛になられますよう祈念しております。

成田RCではCLPを鋭意検討中と聞いておりますが、どんな進捗状況なのでしょう？

設楽：後程、本田さん、松本さんからCLPの真髓についてはお話があるわけですから、まずは私たちがCLPを採用しようと思いましたがきっかけからお話させていただきます。成田RCは現在53名の会員数であります、私が会長

エレクトの際、委員会構成を見ますと一人だけの委員会がいくつかございました。たった一人で何が出来るのか、様々考えるとき、組織をもっと簡素に出来ないものかと副幹事と話し合ったわけです。それは一年前でありましたが、そのような時CLPを知ったわけです。その後何人かの会員と相談し、今後クラブが活性化するために導入しようとの結論に至りました。導入の過程で大事なことは



2790地区のCLP先駆者として先行する成田RC設楽会長。

①会員のクラブに対する現状の意識をまず確認すること

②CLPは管理運営の変革であり、職業奉仕を真髓とするロータリーの根本を変えるものではないことを認識してもらう。

③導入の過程でロータリーの親睦や奉仕についての議論を深める。

④全員の理解と賛成を得て導入する。

これらを意識して準備に入ったわけです。RIの資料では6ヶ月前から準備すればというマニュアルでありましたが、9ヶ月前からでしたのでじゅうぶん間に合うと考えておりました。しかし前橋さん、鈴鹿西さんなどは長い年月準備の時間をかけたわけで、冒頭も申し上げましたが、もしこれら先人がいなかったならばとも間に合わないだろうと思っています。成田クラブは次年度からの採用ということでいまだ運用しておりませんので様々な問題点は見えていませんが、今後、走りながら訂正していこうと思っています。

次に現在までの成田クラブの取り組みをプロジェクターで説明いたしますが、時間の関係上かいつまんでご説明いたします。

2月から5月に有志により資料の収集と分析

を中心に年間の工程表作りなど勉強会を実施。工程表は導入まで確実に実行し遅れなど無いよう確認しました。6月に前年度会長の了解の下、本格的にCLP委員会（7名にて）を立ち上げ、会員に対するCLPの周知徹底のための資料作りを行いました。

7月に 第一回目の会長挨拶にてCLPの基本理念について話をし、さらにスライドを使い会員の理解を促しました。また、クラブ満足度テストを実施し会員の現状認識を確認したわけです。

8月に公式訪問の際、テスト結果を発表するとともにCLPの必要性を訴えました。

9月に6班に分けたHMにCLP委員が一人ずつ入り、説明とCLPに対する討論を行い、更に会員一人ひとりに賛否を聞きました。そして、その後CLPの導入に伴うクラブ細則変更の説明、質疑を2回行ないました。

10月に指名委員会、長期計画委員会を立ち上げ次年度の導入の準備に入りました。

11月予定として理事会にてCLPの導入の決定を行い12月年次総会にて正式に決定する予定です。

以上、本当にかいつまんでの説明ですが、最後に来年度の会長要覧が既に出ていますが、このCLPを中心とした構成になっております。様々賛否があることは知っておりますが徐々に浸透しつつあると考えております。以上終わらせていただきます。

上條：設楽さん、今日はCLPの先輩、松本さんがお見えですから、聴衆の皆さんになり代わってどんどん聞いてくださいね。

松本さん、遠路をこのパネルディスカッションにご参加いただき、本当にありがとうございます。

私を知る限り、本格的にCLPにクラブの組織を変更し、実施に入られたのは、鈴鹿西RCが一番早かったのではないかと考えておりますが、その動機は何だったのでしょうか。そして結果

としては会員増にもつながっていると伺いました。企画・導入から実施までの経過をご紹介いただけますか？

松本：クラブを活性化させたい。会員が減ってきて予算的にも厳しくなってきました。そんな時にクラブの20周年を迎えまして、私が実行委員長を仰せつかったのですが、その記念事業としてこのCLPをやっていこうということになったのです。そのころ何かの雑誌でバンクーバーのサンライズRCが会員減少を喰いとめるためにCLPをやったというニュースを聞きました。ロータリー100周年を迎えましたシカゴの国際大会で、このサンライズRCのワークショップが1500名ほど集めて盛大に行われておりまして、大変有益な勉強をさせていただきました。

CLPの導入をガバナーのところへ持っていききましたところ、クラブの自治権はクラブにあるのだから、CLPを進めてよろしいとお言葉をいただきました。一部パストガバナーより反対の声も上がりましたが、私どもでは実行を決意したわけです。それ以降は私どものホームページに経過報告されていますが、先ずクラブの実態を良く掴むこと。そして数値目標を設けながらタイムスケジュールを暗中模索の中で作って行ったのです。私どものCLPは2005年よりスタートしたわけですが、今年度は楽しいクラブ作りに力点を置いています。そして常にプランニングサイクルの見直しをしようとしていこうと心しています。CLPとは手段です。目的ではありません。そしてCLPを運用していく人作りが何よりも大切なことと考えています。



日本のCLPの先駆者的存在である鈴鹿西RC松本氏。

上條：実はその点で、

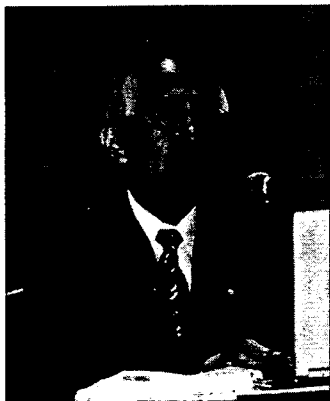


三年の月日をかけて自分のクラブをどのように改革していくか、検討を続けているクラブがあります。クラブ内でのアンケートを中心に会員総意の「理想のクラブ像」というものを作成し、それに向かってクラブの改革を行っていくといった、まことにオーソドックスな方法をとられています。

前橋RCの本田さん。貴クラブの「21世紀特別委員会」の皆様のご活躍内容と「クラブ改革提言Ⅲ」について、お聞かせいただけますか？

本田：今回参加させていただいたのをチャンスに、是非お礼を申し上げたい方がおいでです。それは3年前に2840地区の会員増強委員長を拝命したのですが、当時RIのゾーンコーディネーターでありました習志野RCの渡邊 隆パストガバナーにご指導をいただきました。その時渡邊さんは会員増強を単に会員数の増加とのみ捉えるのではなく、会員組織の質的強化が大切であるとお教えいただきました。大変大きな啓蒙をいただき、そのお礼を渡邊様のおいでのなるこの場で申し上げることが出来ますのは、私にとりまして大きな喜びです。ありがとうございました。つまり良い会員組織を作っていけば、自然と会員は増えていくということです。

前橋RCは2003年に50周年の記念事業として、「21世紀委員会」を立ち上げて、クラブの棚卸しを行ったわけです。一年目に会員のアンケート



会員の満足度アンケート調査を通じてクラブ活性化を進める前橋RC本田氏。

調査を行い、実情を詳しく調査しました。次の年は組織の活性化、社会奉仕と広報の問題を具体的に進めました。丁度そのころCLPがクローズアップされてきて、実は同じようなことを知らぬ間に進めていたのだと感じました。第3

期が昨年度ですが、改定クラブ細則の検討、あるべきロータリー像の検討などを行いました。

最初にやりましたアンケート調査について、もう少し詳しく説明しますと、5つの分野について25問の質問になっています。この合計が100点満点になります。一番辛い点数を付けたのが、当時の会長でして、これなら「改革はうまく行くな！」と思いました。

もうひとつは「会員満足度アンケート」というのを毎年実施しています。RIにも同様のアンケート用紙がありますが、日本のロータリーには不向きな点もあると感じまして、自前でアンケート用紙を作ったわけです。そのアンケートに基づいて、実際と理想のギャップを埋めていくための第一期の改革提言をつくったのですが、その内容は結果的にはCLPの具体的提言9項目と驚くほど同じ内容になっているのです。3年続けてきて、明らかに会員満足度は向上してきております。その結果としてクラブ組織の強化は図られ、クラブは活性化され、会員の増強にも繋がるわけです。

2840地区のホームページの曾我パストガバナー年度に、今お話ししました内容が詳しく載っております。

上條：前橋RCは100名を超える大型クラブでありながら、尚且つ会員が増え続けているということは、それだけ会員が在籍していることに意義を感じて、楽しめるクラブが出来上がっているということですね。

設楽さん、長塚さん、常泉さん、自分のクラブもこのようにしたいものですね。

上條：本田さん、貴クラブの「会員満足度アンケート」は、勝手に使わせていただいても良いのですか？

本田：どうぞお使いください。今回提示しました資料は全て上條さんにお渡ししてありますから、ガバナー事務所へ申し出られれば、送って

くださると思います。

上條：本田さん。貴重な資料を使わせていただきます。皆さんガバナー事務所へお電話をください。

また、松本さんがお示しになられた資料は、全て鈴鹿西RCのHPに掲載されておりますので、HPでご覧ください。松本さんよろしいですね。

松本：ハイ

上條：こういう話をしていると、アッという間に時間が過ぎていきますね。残り5分となりました。

最後に白鳥ガバナーからのお願いです。お手元にアンケート用紙をお配りしております。私の方から読み上げますので、この場でご記入いただき、出口にて係員にお渡しください。

皆様のクラブが何を望んでおられるのか？それをお聞かせいただき、今後の地区運営に役

立てていきたいと考えております。

当アンケートの集計結果は、ガバナー月信および地区ホームページにてご案内いたします。ご協力をありがとうございました。



皆さんの活発な意見交換に感謝の意を述べる司会の上條氏。

上條：パネラーの皆様、そして会場の皆様、長時間にわたりご討議いただき、ありがとうございました。

私はこんなにロータリーのクラブ運営について真剣に考えたことがありませんでした。でも、自分のクラブが好きなんですね。いつまでも仲間と楽しく過ごせるためには、少しは努力せねばならないな、と痛感しました。

ありがとうございました。

